

写真展開催

報告書

松本市カトマンズ市姉妹提携 33 周年記念事業

松本ヒマラヤ友好会山岳写真展

北ア・カトマンズ・ヒマラヤ 編-II

会場 井上デパート本店 7階催事場大ホール

期日 R4. 9/28(水)~10/2(日) AM10:00~PM6:30

(最終日 PM4:00 まで)

事業報告と一般公募作品による写真展

審査・監修：NPO 法人松本ヒマラヤ友好会理事長鈴木雅則

カラパタールから望む世界最高峰エベレスト 8848m 撮影 鈴木雅則

主催 NPO 法人 松本ヒマラヤ友好会《MHC》 <http://www1.ocn.ne.jp/~mhfc/>

事務局 松本市島立 4539-7 TEL47-6197 FAX47-5685 E-mail: mhc@lily.ocn.ne.jp

共催 松本市

後援 長野県 公益財団法人長野県国際化協会(ANPI) 松本市海外都市交流委員会
信濃毎日新聞社 朝日新聞長野総局 読売新聞松本支局 中日新聞社 MG プレス
市民タイムス 長野日報社 長野県写真連盟

写真総評



作品審査員

NPO 法人松本ヒマラヤ友好会(MHC)理事長 鈴木 雅則

NPO 法人松本ヒマラヤ友好会(MHC)主催、松本市カトマンズ市姉妹提携 33 周年記念事業、松本ヒマラヤ友好会山岳写真展は、関係各位のご支援をいただき、お蔭を持ちまして、令和 4 年 9 月 28 日(水)～10 月 2 日(日)までの日程で、松本駅前、松本市を代表する井上百貨店で、松本ヒマラヤ友好会山岳写真展—北アルプス・カトマンズ・ヒマラヤ編—II—と題した写真展として開催する運びとなりました。

写真展には、事業活動 30 年以上にわたる松本ヒマラヤ友好会の北アルプスでの MHC 登山講習時に撮影した山岳景観、姉妹都市カトマンズ市との市民交流時に撮影した、世界文化遺産とその街造り、人々の暮らしぶり、そして青い空に輝く白銀のネパール・ヒマラヤの大自然の作品を展示することが出来、また一般公募者から、多くの感動作品が寄せられ、文化・山岳交流事業活動として松本で開催することが出来ました。

今回の写真展に寄せられた一般公募作品のグレードは高く、世界最高峰のエベレストをはじめとした高峰群の雄大さ、華麗さ、神秘性など、素晴らしく表現されており、一方、カトマンズの市街写真は、生活模様にあふれ、庶民の暮らしぶりや、何よりもすばらしい笑顔の作品が多く、力強く生きている人々の作品が多くみられました。

作品一枚一枚を、じっくり鑑賞していただくことで、姉妹都市「カトマンズ」のなつかしさと『ネパール国』のすばらしさが、感じられてくると思います。

NPO 法人松本ヒマラヤ友好会(MHC)理事長 鈴木雅則プロフィール

鈴木雅則・略歴：1950 年 2 月 21 日、東京都品川区で、鈴木試験機製作所を経営する鈴木家の三男として出生。美しい山と自然に憧れ、1973 年から松本市に移住。1982 年松本市島立において、土地家屋調査士・行政書士事務所を開設、所長として 35 年務め、法務局への登記、諸官庁への申請手続の代行業務を行う。この間、MHC を創立、姉妹都市交流、MHC 登山講習に尽力するが、2017 年、体調を壊し土地家屋調査士・行政書士事務所を閉所する。

表彰：2019 年 11 月 MHC の長年の活動に対し、市勢の発展に寄与したとして、**松本市功労者表彰授与**される。

2020 年 11 月 公益財団法人社会貢献支援材団から、全国から選ばれ、**第 55 回社会貢献者表彰授与**される。

役職歴：2022 年現在：NPO 法人松本ヒマラヤ友好会(MHC)理事長、MHC 活動記念館 館長、松本市海外都市交流委員会副会長、同委員会カトマンズ部会長

主な作品：「ヒマラヤの青い空とカトマンズ」市民交流 30 年の歩み I～IV 巻 「上高地の美しい自然と槍・穂高連峰縦走」写真集 I 巻、その続編として「上高地編 1 巻、槍・穂高岳編 1 巻」各写真集。姉妹都市カトマンズと山岳交流 I 巻、姉妹提携 32 周年記念事業 松本ヒマラヤ友好会山岳写真展報告書 1 巻、アルプス登攀記 I～III 巻の計 12 巻の全作品は、県立・長野図書館に所蔵され、各一部は永年保存され各一部は図書館で、いつでも閲覧することが出来ます。

松本市カトマンズ市姉妹提携第 33 周年記念事業

「松本ヒマラヤ友好会山岳写真展北アルプス・カトマンズ・ヒマラヤ編-II」

MHC 事業報告写真

— 会場 井上デパート本店 7階 期日 令和4年9月28日(水)~10月2日(日) —

期間中、姉妹都市交流の MHC 事業報告写真等 137 点、公募からの入選作品 67 点、総数 204 点が展示されました

会場玄関入口壁面ご挨拶写真 A2 版 抜粋



ポスター



1-5

夕暮れのエベレスト



1-4

ニャタポラ寺院



1-3

仏教寺院スワヤンブナート



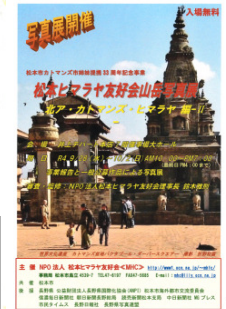
1-2

表敬訪問



1-1

報道記事



ポスター

A壁面事業報告写真 A1~A2 版 カトマンズ盆地の世界文化遺産



地図

A-1



A-2

旧王宮からのカトマンズ市街



A-3

ボドナート



A-4

パシュパティナート



A-5

スワヤンブ・ナート



A-6

パタン・旧王宮前広場



A-7

チャングナラヤン寺院



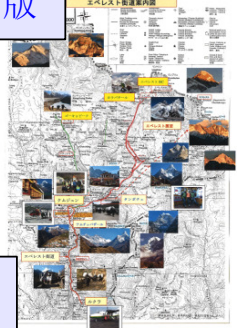
A-8

バクタプール旧王宮前広場

B壁面 松本市市制 100 周年記念事業「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行」ゴークョピーク 5360mトレッキング A2 版

A3 版

街道案内図



b-1

事業報告写真 A3 版



B-1

ナムチェの丘でバンザイ！。エベレスト・ローツェの輝き



B-2



B-3

4000mのモーン・ラ<<峠



b-2

カ市へ表敬訪問



b-3

シカラ様式の建物



b-4

定期便でルクラへ



b-5

ナムチェに登る



b-6

タムセルクを望む



b-7

荷を担うゾッキョ

MHC事業報告出展作品 撮影MHC理事長鈴木雅則

番号	題名	備考
1-1	松本市とカトマンズ市が1989年11月松本市とカトマンズ市が1989年11月に姉妹提携を結んだことを伝える市民タイムス報道記事。今年、姉妹提携から33周年を迎えます。	
1-2	松本の市民訪問団を歓迎するカトマンズ・タマン市長(当時)。	
1-3	カトマンズの西に立つストゥーパ様式の仏教寺院スワヤンプナート。2000年の歴史があり世界文化遺産に登録されている。	
1-4	ビシュヌ神の妃ラクシュミーを祀る世界文化遺産、ニャタポラ寺院。バクタプールの街に建ち、高さ36mあり、ネパールで最も高い寺院。	
1-5	エベレストトレッキングをして、カラパタール5545mに登頂。そのピークから、夕照に輝く世界最高峰エベレスト8848mを間近に仰ぐ。	
A壁面、事業報告題名、解説。カトマンズ盆地の世界文化遺産		
A-1	ネパール全図、カトマンズ盆地地図	
A-2	カトマンズの旧王宮、バサンタプールバワン、高さ31m、9階建ての最上階から、展望するカトマンズ市街。	
A-3	世界最大級のストゥーパを擁する、チベット仏教(ラマ教)寺院、ボドナート。チベット仏教徒のカトマンズ第一の聖地。	
A-4	ネパール最大のヒンズー教寺院、パシュパティナート。聖なるガンジス川のほとりに建ち、巡礼者は年中耐えることがない。対岸には、シバ・リンガムを祀った白い小塔が百基以上群立する。	
A-5	秋から冬にかけて、カトマンズ盆地に朝霧がよくでる。やがて光が差し込むと、いち早くスワヤンプナートにあたる。市街地の西方3キロの丘の上に建つストゥーパ様式の仏教寺院。	
A-6	カトマンズの南、5キロに在る、パタンの旧王宮前広場、党と寺院の複合体で、中世建築の極致といえる。パタンの旧名は、美の都を意味するラリトプール。	
A-7	カトマンズの東13キロの丘の上に建つ、ヒンズー教の三大神ビシュヌ神を祀るチャングナラヤン寺院。2層屋根の建物は、盆地内ではもっとも古く、美しいことで有名。	
A-8	バクタプールの旧王宮前広場。東にシカラ様式石造りのバトサラ寺院、西に王家の住居、55層の宮殿が建つ。バドガオンと呼ばれ、信仰の町を意味する。	
<p>「岳都カトマンズ&世界最高峰エベレスト8848m撮影紀行」は、松本市市制施行100周年記念事業として2007年12月24日～2008年1月8日までの日程で松本市民を始めとする参加者21名により実施。参加者一行は、カトマンズ市を表敬訪問して古都カトマンズを探訪し、エベレスト山群の奥深く入り込み、ゴーキョピーク5360mの登頂を見事果たして、岳都交流と、姉妹都市交流の責任も果たして参りました。1月、井上デパート7階大ホールで報告写真展を開催。カトマンズからはカトマンズ市長賞を表彰するため、視察訪問団が来松する。</p>		
B-1	エベレスト街道を登り、ナムチェバザールの丘に登り、壮大なエベレスト山群に感激。「バンザイ！」	
B-2	夕方、鮮やかに夕陽に輝き、8000m峰、エベレスト、ローツェが、歓迎するように、微笑んでくれた。	
B-3	4000mのモーン・ラ、チュルテン(仏塔)が立ち、タルチョーがはためくその先の北方に、白峰アマダブラム6812mがそそり立つ。	
B-4	チョ・オユ-8201mを望むゴーキョ4791mに到着。ここをベースにしてピークを目指すこととする。ゴーキョの湖は、ドゥード・ポカリと呼ぶ。	

撮影紀行写真A2版



B-4

チョ・オユーを望むゴークヨ 4791m



B-5

ゴークヨ・ピーク 5360mを目指して登る



B-6



B-7

ゴークヨピークからの展望

A-7

事業報告写真 A3 版



b-8

荷を運ぶゾッキョ隊



b-9

ピークへのアタック



b-10

全員登頂する



b-11

ピークからの撮影



b-12

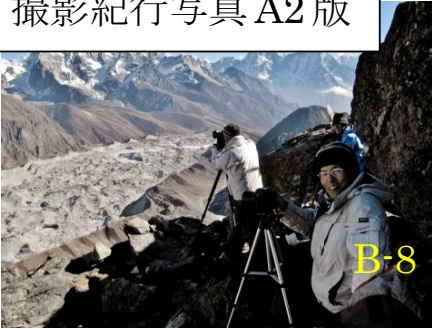
陽を浴びるヒマラヤの峰々



b-13

夕照に輝くエベレス

撮影紀行写真A2版



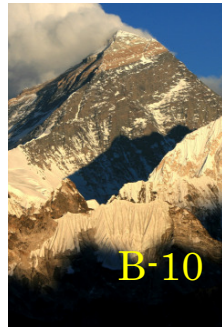
B-8

ピークからの撮影



B-9

徐々に日が陰るが、エベレスト、ローツェの 8000m峰は夕陽に鮮やかに照らし出されている。



B-10



B-11



B-12

事業報告写真 A3 版



B-13

ゾッキョドライバー



b-14

夕暮れ時の前衛の峰々



b-15

クムジュン村のメンダン



b-16

クムジュン校MHC学生寮慰問



b-17

カトマンズ帰還時の報告会

C壁面 MHC 創立 20 周年記念事業「岳都カトマンズとエベレスト撮影紀行」カラパタール 5545m登頂トレッキング A2 版



C-1

トレッキング参加者記念撮影



C-2

街道でマニ石群に出会う。ドゥードコシに架かる橋梁



C-3



C-4



C-5



C-6

事業報告写真 A3 版



c-1

カ市長を表敬訪問



c-2

カ市長と記念撮影



c-3

ルクラへ空路飛ぶ



c-4

ルクラ出発



c-5

エベレスト街道に行く



c-6

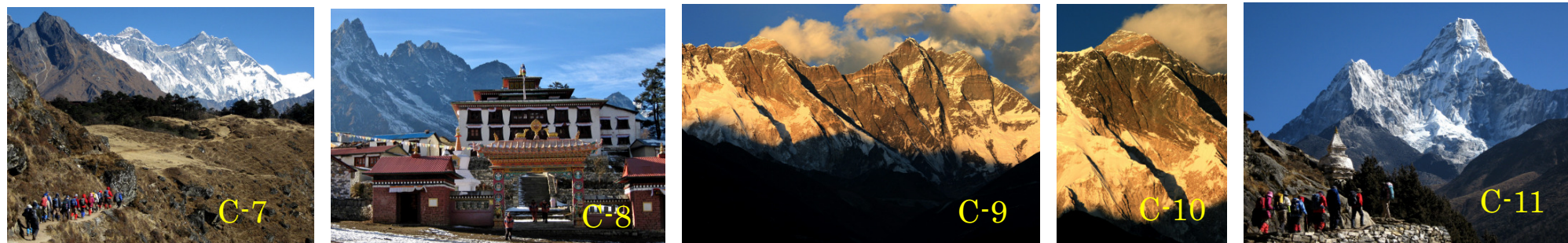
マニ石脇に行く

番号	題名	備考
B-5	無雪の斜面を、一歩、一歩、ゆっくり登ると、展望が広がり、ヒマラヤの先鋒群を望む。ドゥード・ポカリを眼下に見下ろす。	
B-6	ピーク近くになり、高度も5千数百mになると、展望が効くようになり、間近にエベレストを展望する。	
B-7	3時間登り続け、タルチョーはためく、ゴーキョ・ピーク5360mに登頂する。眼下に流れる(?)ゴジュンバ氷河を望む。。	
B-8	ピークに登頂すると、市民参加者は、すぐに三脚を立て、カメラをセットし、撮影が始まった。皆、真剣そのもの、撮影に余念がない。	
B-9	徐々に日が陰り、エベレスト、ローツェの8000m峰だけは、夕陽に鮮やかに照らし出されている。	
B-10	夕陽に照らされる、エベレスト8848mの雄姿。	
B-11	夕陽に照らされる、ギャチュンカン7952m。長野県山岳連盟(当時)が世界で初めて登頂した峰だ。	
B-12	登頂後、足取りも軽く(?) 帰路を急ぐ。ここから数日かけてクムジュン、ナムチェを経由して、ルクラまで歩き、そこから定期便に乗り、カトマンズへ帰還。カトマンズ市役所へは、全員登頂を果たし、無事帰還した事を報告して、帰国の途に就くことになる。	
B-13	荷を運んでくれたゾッキョとゾッキョの世話をしてくれたゾッキョドライバーのリーダー。意外にも若いシェルパの女性だった。	

A3の説明写真

b-1	エベレスト街道案内地図	
b-2	早速、カトマンズ市役所へ表敬訪問	
b-3	カトマンズの西、小高い丘キルティプールには、シカラ様式の石造りの貴重な建物が残っている。	
b-4	カトマンズから定期便30分程でエベレスト街道玄関ロルクラへ飛ぶ。舞い上がると北方にロールワリンヒマールの白銀の峰が眼前に飛び込んできた。	
b-5	トレッキング2日目、標高3440mの、シェルパの中心村、ナムチェバザールへ登る。	
b-6	ナムチェの東には、白銀のタムセルク6623mが聳える	
b-7	4日目、クムジュン村で、荷運びのゾッキョの荷物の積み替えを行う。	
b-8	トレッキングの朝、荷を運ぶゾッキョ隊が、先に出発。トレッキングを先行する。	
b-9	ゴーキョピークへのアタック、無雪の斜面を一歩一歩、ゆっくりと呼吸も合わせ登る。	
b-10	ゴーキョピーク5360mに、全員登頂する。「おめでとう、頑張ったね」	
b-11	ピークからの撮影、今日は晴天、絶好の撮影日和だ。	
b-12	西の空に太陽が沈み始める時、陽を浴びて輝く8000mの高い峰々。	
b-13	世界最高峰のエベレストは、沈みゆく太陽に照らされ、この日最後の夕照に輝いていた。	
b-14	西の空に陽が沈む夕暮れ時、夕照に輝くエベレスト前衛の峰々。	

撮影紀行写真 A2 版



エベレストを望み進む タンボチェ寺院 夕陽を浴びた壮大な景観 エベレストの雄姿 アマダブラムを仰ぎ街道を行く

事業報告写真 A3 版



村の子供たち なかなか勉強家だ！ 街道沿いのマニ石 ドゥードコシ川沿いの道 ナムチェへ ナムチェゴンパを巡る

撮影紀行写真 A2 版

C-1



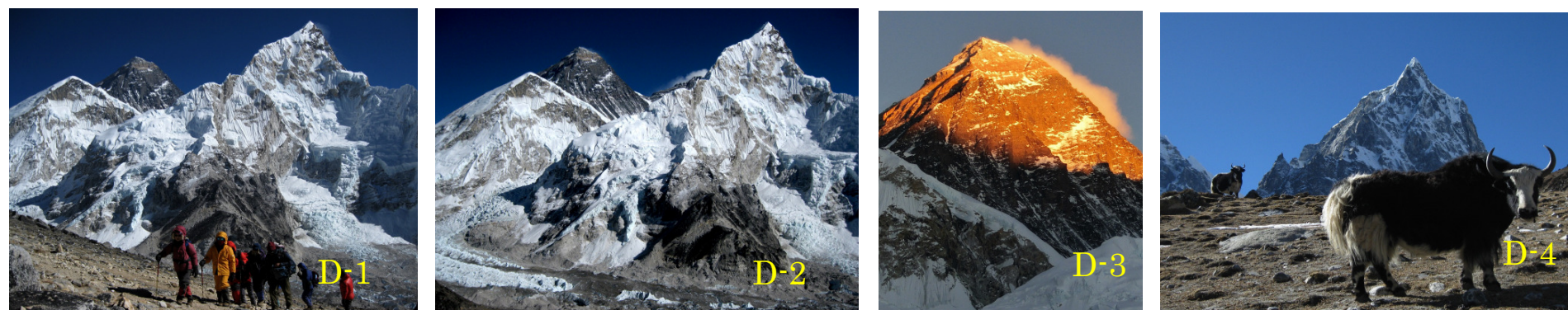
4千数百m、目指す集落ショマレへ ディンボチェからのアマダブラム 6812m ロブジェへの道 雪の朝、荷を担うゾッキョ隊

事業報告写真 A3 版



クムジュン校 MHC 学生寮 学校に文具を持参 MHC 学生寮を訪ねる サッカーボールを寄贈 道沿いに点在するマニ石

D 壁面事業報告写真 市民登山による、カラパタール 5545mへ登頂 A1~A2 版



ピークへ一歩一歩登る カラパタールからの展望 夕照に輝くエベレストの姿 荷を担うゾッキョ、やっと帰れる！

事業報告写真 A3 版



白い世界ロブジェへ向かう ゴラクシェツプへ向かう 見事カラパタール登頂 正面にエベレストを望む 登頂を祝いカタを掛ける

番号	題名	備考
b-15	全員登頂を成し遂げ、クムジュン村に戻ってきた。クムジュンのチョルテン(仏塔)とマニ石が、懐かしい気持ちにする。	
b-16	シェルパの学生たちが勉学するヒラリースクール・クムジュン校を訪問。MHCは、遠隔地通学学生らの為、学生寮を建設。その様子を視察に訪問。校長先生が立ち会った。	
b-17	カトマンズに帰還すると、カトマンズ市役所の方々が、我々の登山での情熱と勇気をほめ称えてくれた。参加した市民の皆さんも、きっと満足していることでしょう。	
2009年12月～2009年12月～10年1月、MHC創立20周年記念事業として、「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行」として、市民参加のエベレスト・カラパタール5545mの登頂トレッキングを実施。市民ら20名が参加し、16名の登頂を果たす。		
C-1	トレッキング参加者全員は、カラパタール5545mの登頂を成し遂げ、帰路、エベレストの展望する丘で、喜びの記念撮影をおこなう。「ありがとう、そしてさようなら・・・」	
C-2	カトマンズ市長表敬訪問の翌日、カトマンズからエベレスト街道出発口のルクラへ定期便で飛ぶ。トレッキング第一日目、街道沿いにチベット仏教の洗礼と衝撃を受ける。経文の彫られたマニ石群に遭遇、信仰の深さを実感する。	
C-3	ヒマラヤを源とする川が幾筋も流れ、奥地へ向かうため、世界からの支援を受けて、長い橋がかけられた。以前は、石伝いに渡るか、丸太を組んだ木橋を使っていた。	
C-4	クーンブ地方のシェルパ族の中心の村、ナムチェバザール3440mに到着する。	
C-5	ナムチェ上部の山斜面を、私達トレッカーの荷物を運ぶ、ゾッキョたち。背景は6000m級のクスムカングルーの峰々。	
C-6	タムセルク6623mを望み、エベレスト街道3600m付近に行く。	
C-7	エベレスト、ローツェを望み、エベレストビューホテルの丘へ向かう。	
C-8	エベレスト街道3867mに建つ、タンボチェ寺院。シェルパ族の信仰するチベット仏教の総本山的なお寺だ。	
C-9	タンボチェから望む、夕陽を浴びたエベレスト、ローツェの壮大な景観。	
C-10	夕陽を浴びたエベレストの雄姿。	
C-11	エベレスト街道4000m付近、アマダブラムを仰ぎ、チョルテン(仏塔)脇を歩く。	
C-12	エベレスト街道、4千数百m、重くなった身体を持ち上げ、すぐ近くのショマレの集落を目指し、奥へ進む。	
C-13	ディンボチェに到着、宿泊する。すぐ近くに見上げる先鋒は、まったく違った形状のアマダブラム6812mだ。夕陽に照らされ、まったく人を寄せ付けない、厳しさだ。	
C-14	チョラツェ6440m、タウチェ6501mの切り立つ峰が聳える、ディンボチェ4300mからロブジェ4960mへの道。	
C-15	雪の朝、ゾッキョ隊は、私たちの荷を担い、デンボチェを出発する。	
D-1	カラパタール5545m目指して、ますます薄い酸素に悩ませられながら、渾身の力を込めて、一步、一步登る。	
D-2	カラパタールからのエベレスト左8848m、ヌプツェ右7855mの壮麗な姿	
D-3	今日、最後の夕陽に輝く世界最高峰エベレスト8848m。	

番号	題名	備考
D-4	仕事を終えて、ほっと一息のゾッキョ。やっと帰れるので、楽しそうだ！。ご苦労さん。	
A3の説明写真		
c-1	市役所表敬訪問すると、カトマンズ市長から歓迎のカタを掛けてもらう。	
c-2	カトマンズ市から歓迎され、記念撮影	
c-3	翌朝、カトマンズからエベレスト街道玄関口、ルクラへ定期便で飛ぶ。	
c-4	準備を整え、ルクラを出発。	
c-5	厳しいエベレストを控えるクーンブヒマールの麓とは思えぬ、牧歌的な景色が続く	
c-6	街道沿いには、信仰するチベット仏教の経文が平たい石に刻まれ並べられている。これをメンダンと呼ぶ。	
c-7	村の子供たち。子供が小さな弟、妹の面倒を見るのがあたりまえだ。	
c-8	子供たちは、学習してきた字を読み、弟も関心を持って本を読んでいる(?)。うーん、なかなか勉強家だ。	
c-9	街道沿いのマニ石脇を歩く。	
c-10	ナムチェへの道、流れるドゥードコシ(ミルクの意)川沿いの河原に行く	
c-11	河原から600mの登りで、シェルパ村の中心的存在、ナムチェバザールに到着。	
c-12	通り道のナムチェゴンパ(お寺)に登山の安全を祈り、壁に据えられたマニ車を回し、登る。	
c-13	ナムチェから1時間半ほどの登りで、クムジュン村へ到着。この村にエベレスト初登頂者エドモンドヒラリーさんが建てたクムジュン校(小中高)があり、MHCは、遠隔地から通学困難な学生の為、2002年に学生寮2棟を建設。	
c-14	学校は、ヒマラヤの麓、3800mの高度に在り、ルクラから3日もかかるところ。学校には文具が少なく、勉強熱心な学生に、帳面や鉛筆を持参した。	
c-15	遠隔地で、通学困難な学生らの為の、宿泊用MHCの学生寮室内を訪ねる。文具をお渡しする。室内はきちんと整理整頓されていた。	
c-16	校庭で、サッカーに興ずる学生たち。サッカーボールは、MHCが仲介して、安曇野の穂高北小学校PTAと生徒らが寄贈した。	
c-17	トレッキングは、街道沿いに点在するマニ石脇を抜けて、高度を上げ、奥へ進む。	
d-1	ディンボチェ4300mからロブジェ4960mへ向かう。雪が降り、白い世界となる。	
d-2	ロブジェ4960mからゴラクシェツプ5100mへ向かう。岩と氷と雪のっ世界だ。	
d-3	ゴラクシェツプ5100mをベースにして目標点カラパタール5545mを目指す。薄い酸素の為、体調もままならない。低体温症に注意をして、重い身体を一步一步引き上げ登る。	
d-4	登り3時間かけて、カラパタール5545mに、全員見事登頂。「おめでとう！」	

L 壁面事業報告写真 北アルプス・上高地の美しい自然 A1~A2 版



L-1

新緑萌える大正池畔



L-2

満開のコナシの花と六百山



L-3

新緑萌えるケショウヤナギ



L-4

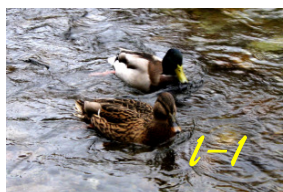
西穂高岳登山



L-5

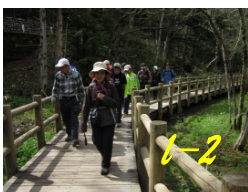
頂上直下の岸壁

事業報告写真 A3 版



L-1

つがいのカモ



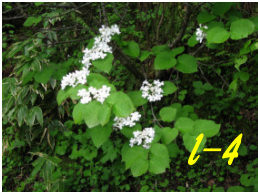
L-2

大正池畔の木道



L-3

サンカヨウ



L-4

オオカメノキ



L-5

シダ類



L-6

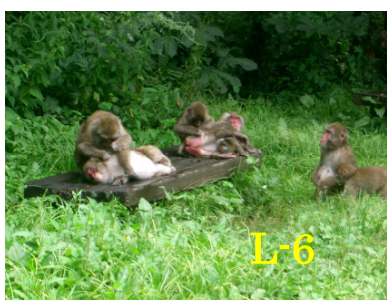
イワカガミ



L-7

シロバナエンレイソウ

撮影紀行写真 A2 版



L-6

上高地の野猿



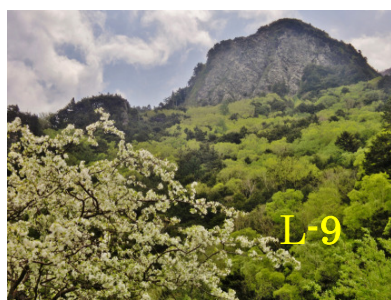
L-7

河童橋と見上げる穂高岳



L-8

梓川畔のコナシの花



L-9

コナシの花と六百山



L-10

新緑のケショウヤナギと明神岳

事業報告写真 A3 版



L-8

右岸沿いの木道



L-9

ツバメオモト



L-10

ラショーマンカズラ



L-11

エゾムラサキ



L-12

若葉を食べる野猿



L-13

クルマバツクバネソウ

d-6

撮影紀行写真 A2 版



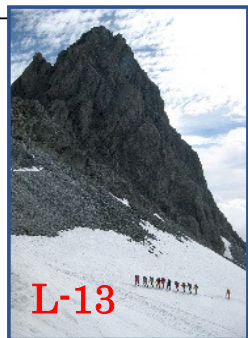
L-11

ニリンソウ咲き競う徳沢



L-12

残雪深い槍沢を登る



L-13

残雪の槍ヶ岳



L-14

槍ヶ岳山頂からの展望



L-15

縦走路に行く

事業報告写真 A3 版



L-14

ミヤマカタバミ



L-15

支流を泳ぐイワナ



L-16

ベニバナイチヤクソウ



L-17

フッキソウ



L-18

ゴゼンタチバナ



L-19

槍ヶ岳のご来光

番号	題名	備考
d-5	カラパタールから大迫力の展望。見上げる正面に世界最高峰エベレストが聳え、アイスフォールが流れる落ちる、左の平らなところがベースキャンプ地だ。	
d-6	サーダー(シェルパ頭)から登山者の情熱と勇気を称え、白い布カタを首にかけてもらう。「ありがとうございました。お世話になりました。うれしいです。」	
北アルプス・上高地の美しい自然 市民参加のMHC登山講習から		
L-1	新緑萌える大正池畔から仰ぐ、残雪の穂高岳	
L-2	満開のコナシの花とその枝越しに見上げる六百山と霞沢岳	
L-3	新緑萌えるケシヨウヤナギと残雪の穂高岳	
L-4	西穂高岳登山	
L-5	西穂高岳山頂直下の岩場を登る。	
L-6	上高地に住む野猿、くつろぐ姿が愛らしい。	
L-7	梓川の清流に架かる河童橋。その袂から見上げる残雪の穂高岳	
L-8	梓川畔に咲く満開のコナシの木の枝越しに見上げる残雪の穂高岳	
L-9	満開のコナシの花と六百山の岩峰	
L-10	風にそよぐ新緑のケシヨウヤナギの上空に、残雪の明神、前穂高岳。	
L-11	ニリンソウが咲き競う、徳沢	
L-12	6月、残雪深い槍沢に、ステップを切って登る。	
L-13	残雪の槍ヶ岳を登る。	
L-14	槍ヶ岳山頂からの展望、西方に笠ヶ岳, 加賀の白山を遠望する。	
L-15	槍ヶ岳を背に縦走路に行く	
L-16	槍穂縦走路、最大の難所、大キレットに行く	
L-17	奥穂高岳の展望、北方に、北穂、涸沢岳、槍ヶ岳を望む。	
L-18	常念岳山頂からの展望、南西方向、白銀の穂高岳を望む。	
A3の説明写真		
l-1	大正池を泳ぐつがいのカモ	
l-2	大正池畔の木道に行く	
l-3	サンカヨウ	
l-4	オオカメノキ	
l-5	森林帯に生息するシダ類	
l-6	葉に光沢がある、イワカガミ	
l-7	白い花卉のシロバナエンレイソウ	
l-8	鳥がさえざる梓川右岸沿いの木道を、明神へ向かう。	

撮影紀行写真 A1 版



L-16

槍穂高岳縦走路 大キレットに行く



L-17

奥穂高岳の展望



L-18

常念岳山頂からの展望 北銀の穂高岳連峰を望む

事業報告写真 A3 版



I-20

高山植物の女王コマクサ



I-21

紅葉する梓川畔



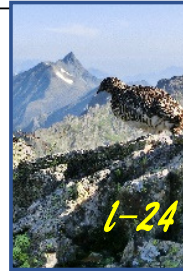
I-22

唐沢の賑わい



I-23

新雪の常念岳山頂



I-24

奥穂高岳の雷鳥



I-25

北アルプスの黎明



I-26

白羽毛の雷鳥

番号	題名	備考
1-9	ツバメオモト	
1-10	ラショウモンカズラ、羅生門において切り落とした鬼女の腕に例えた和名。	
1-11	愛のシンボル、ワスレナグサ属のエゾムラサキ	
1-12	5月若葉を食べに、野猿が現れる。	
1-13	クルマバツクバネソウ	
1-14	ミヤマカタバミ	
1-15	梓川支流を泳ぐイワナ	
1-16	ベニバナイチヤクソウ	
1-17	フッキソウ	
1-18	ゴゼンタチバナ	
1-19	8月中旬、夜明けを迎える槍ヶ岳3180m。山頂に登りご来光を拝す。	
1-20	高山植物の女王 コマクサ	
1-21	10月末、晩秋の上高地、紅葉する梓川畔と新雪頂く焼岳。	
1-22	10月10日ごろ、紅葉真っ盛りの穂高岳、涸沢のにぎわい。。赤黄緑色ののテントが、花が咲いたようだ。	
1-23	11月初め、新雪の常念岳2857m山頂。後方に槍ヶ岳を望む。	
1-24	奥穂高岳に生息するメスの雷鳥	
1-25	輝かしい朝を迎える、北アルプスの黎明。思わず合掌する。	
1-26	冬を迎え、ライチョウは白羽毛に変色する。冬を迎え、ライチョウは白羽毛に変色する。	

会場写真



会場玄関入口壁面 A壁面事業報告写真 B壁面エベレスト撮影紀行Ⅰ C面壁エベレスト撮影紀行Ⅱ

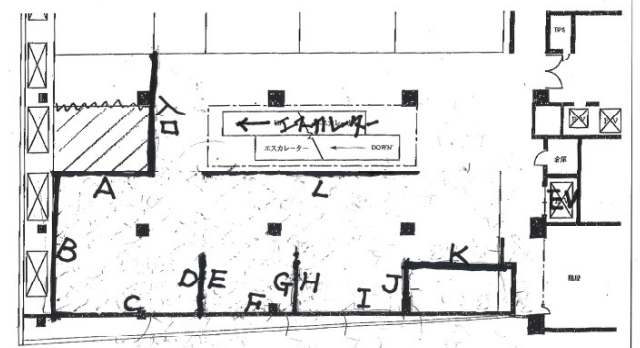


D壁面事業報告写真 E壁面応募入選作品 F壁面応募入選作品 G壁面応募入選作品



会場リラックス休憩所

大ホール会場壁面略図



H壁面応募入選作品 I壁面応募入選作品 J壁面応募入選作品 K壁面応募入選作品



L壁面 北アルプス登山講習 事業報告写真



夕暮れを迎えたエベレスト



世界最高峰エベレスト 8848mの荘厳な輝き

— 会場 井上デパート本店7階 期日 令和4年9月28日(水)～10月2日(日) —

期間中、姉妹都市交流のMHC事業報告写真等137点、入選作品67点、総数204点が展示されました。

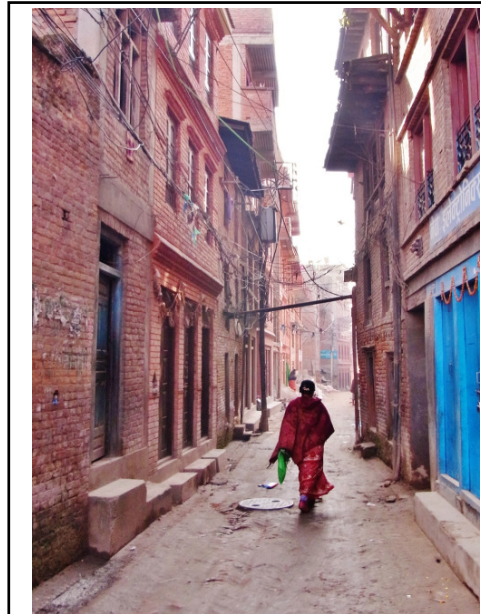
佐藤 明作品 抜粋 E壁面



タムセルク



野外で行水



買い物帰りの女性

上条 邦子 作品 抜粋 E壁面



朝陽に照らされるエベレスト・ローツェ ナムチェの西方に聳えるコンデリ 世界文化遺産の野外学習

平松康栄作品 抜粋 E壁面

平松やよい 作品 抜粋 E壁面



クムジュンからのアマダブラム タンボチェ寺院参詣 エベレストに朝陽が差し込む 世界遺産ハヌマンドカ

中村 由可里 作品抜粋 F壁面



夕陽に輝くタムセルク 6623m



夕陽を浴びる世界最高峰エベレスト



制作した壺の天日干し

入 賞 作 品

敬称略 順不同

賞	題 名	出品者氏名	住所
入 賞	タムセルク	佐藤 明	松本市清水
	市街地、屋外で気持ち良い行水。	同 上	
	街の裏道に行く、買い物帰りの女性。	同 上	
入 賞	朝陽に照らされるエベレスト(左)、 ローツェの雄姿	上条 邦子	松本市島立
	ナムチェの西方に聳えるコンデリ 6187m	同 上	
	カトマンズ旧王宮前広場の、露天売 りが、また始まった。仏具の大安売	同 上	
	生き神様が住む、クマリ館。	同 上	
	今日は先生と世界文化遺産の野外学 習。	同 上	
入 賞	クムジュン村から仰ぐアマダブラム 6812m。母の首飾りと呼ばれる。	平松康栄	松本市松原
	タンボチェ寺院に参詣する。	同 上	
	タンボチェ3867mの朝。エベレスト に朝陽が差し込む。	平松やよい	松本市松原
	カトマンズ世界文化遺産、ハヌマン ドカ、神が見つめる。	同 上	
	エベレスト街道沿い、シェルパ族、 チベット仏教徒の信仰を集める、 3867mに建つタンボチェ寺院。	同 上	
入 賞	夕陽に輝くタムセルク6623m	中村由可里	辰野町小野
	夕陽を浴びる、世界最高峰エベレス ト8848m	同 上	
	思わぬ雪のエベレスト街道を進む。	同 上	
	制作した壺の、天日干し。	同 上	
	坪の制作中	同 上	
入 賞	夕陽に輝くパノラマ展望	小林 幸子	松本市今井
	アマダブラム 母の首飾り 6812m	同 上	
	カトマンズの、ヒンズー教徒も仏教 徒も人々の信仰を集める、2000年の 歴史を持つスワヤンブナート寺院。	同 上	
	四面には、森羅万象を見透す仏陀の 目が、描かれている。	同 上	
	世界文化遺産バクタプールの街に、 孔雀の丸窓が配された造形がある。 15世紀のもので芸術性が高く評価。	同 上	
入 賞	コンデリ峰6187m輝くナムチェの 朝	海野 靖子	長野市
	カトマンズ市街地、遺跡の街の昼下 がり。	同 上	
	ヒマラヤの山の守り神	同 上	
入 賞	釈迦生誕地ルンビニの遺跡。手前の 池は、実母マーヤ・デビが、出産時 沐浴した池といわれている。	折野 和富	安曇野市豊科

小林 幸子 作品 抜粋 F 壁面



夕陽に輝くパノラマ展望



アマダブラム 母の首飾り



森羅万象を見通す仏陀の目

海野 靖子 作品 抜粋 F 壁面



コンデリ輝くナムチェの朝



ヒマラヤの守り神



遺跡の街の昼下がり

折野 和富 作品 抜粋 F 壁面



釈迦生誕地ルンビニの遺跡



ルンビニ池畔に建つ樹齢 2000 年の菩提樹



晩夏の上高地、静かな大正池

K 壁面

徳原 嗣久 作品 抜粋 全作品 8 点の組み写真として松本市長賞 G 壁面



夕陽に輝く世界最高峰エベレスト



3800mのクムジュン村



冬の上高地

徳原 嗣久 作品 抜粋 全作品 8 点の組み写真として松本市長賞 G 壁面



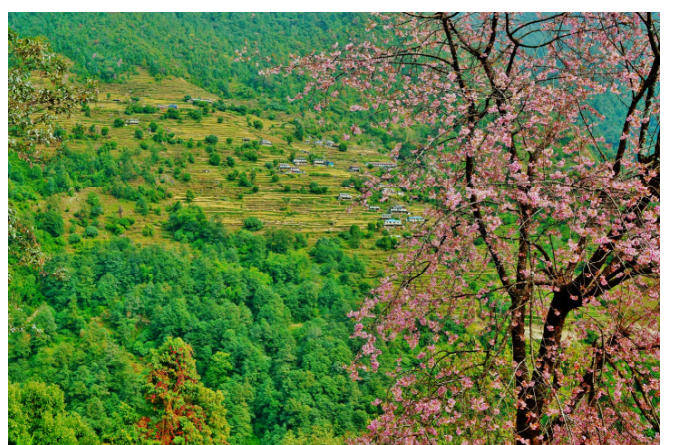
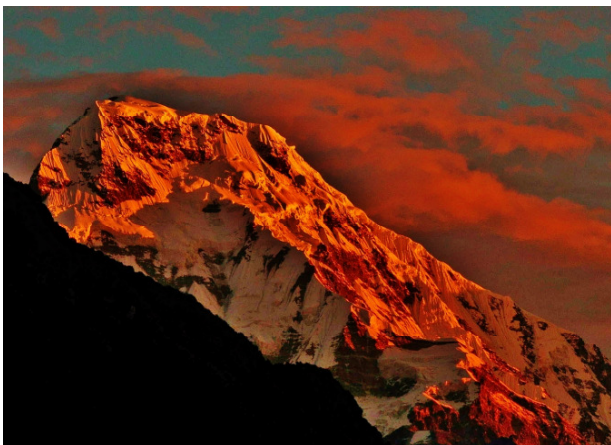
寺院の基壇に並ぶマニ車 スワヤンブナートの丘から望むカトマンズ市街 市街の野菜の露店売り

百瀬 裕 作品 抜粋 H 壁面



エベレストから吹き上げる豪快な雪煙 ダウラギリ上空に巻く雲 母の首飾りアマダブラムに渦巻く雲

山田 善興 作品 抜粋 I 壁面



アンナプルナ南峰モルゲンロート 山下り、売られていく羊たち 桜と段々畑

塚田 登 作品 抜粋 I 壁面



濃霧が消えてエベレストが壮大な姿を現す。 ヤクの楽園 世界最高峰エベレストの堂々とした姿

梅村博道作品 抜粋 I 壁面

賞	題名	出品者氏名	住所
	池畔に立つ、樹齢2000年の菩提樹の根元で祈る、仏僧たち。	折野 和富	安曇野市豊科
	常念坊の新雪。	同 上	
	晩夏の上高地、静かな大正池面に映し出される穂高岳。	同 上	
松本市長賞 8点の組み写真へ	夕陽に輝く世界最高峰エベレスト8848m(左)、ローツェ8516m(右)。	徳原 嗣久	大町市常盤
	3800mのクムジュン村。村に建つチョルテン(仏塔)とアマダブラム	同 上	
	冬の上高地 大正池畔から仰ぐ白銀の穂高岳	同 上	
	冬の上高地、梓川の清流と冬の上高地、梓川の清流と白雪を被った焼岳	同 上	
	カトマンズの西の小高い丘の上に建つ、仏教寺院スワヤンブナート	同 上	
	スワヤンブナートの丘から望むカトマンズ市街	同 上	
	寺院の基壇に並ぶマニ車、基壇を右回りに巡り、一回回すごとにお経を読んだことになるという。	同 上	
	市街の野菜の露店売り。「今日の売り上げは?・・・まあまあだね。」	同 上	
入賞	ヒマラヤの峰に取り巻く雲 世界最高峰エベレストから吹き上げる豪快な雪煙	百瀬 裕	松本市筑摩
	8167m白い峰ダウラギリ 上空に巻く雲	同 上	
	6812m母の首飾りアマダブラム 周囲に漂う雲	同 上	
	タムセルク6623mの峰に渦巻く雲	同 上	
	6933m神の峰マチャプチャレ 吐息のような雲	同 上	
入賞	アンナプルナ南峰モルゲンロート	山田 善興	茅野市宮川
	山を下り、売られていく羊たち	同 上	
	水牛の田起こし	同 上	
	桜と段々畑	同 上	
	一気に向こうの山まで。	同 上	
入賞	上空が晴れ上がっていくと、濃霧が消えてエベレストがその壮大な姿を現した。	塚田 登	安曇野市三郷
	ヤクの楽園。4700mのゴーキョで、厳冬の1月、野外で一晩過ごして、私達登山者を待っていてくれた。	同 上	
入賞	世界最高峰のエベレスト、その堂々とした姿に感動する。	梅村 博道	豊田市
	カトマンズ南西の丘、キルテプールの街で優しい母に抱かれる乳飲み子	同 上	
	世界最大級のストゥーパ、仏教寺院ボド・ナート	同 上	
	北穂高岳に登り、大キレット越しに北方を望む。	同 上	

梅村 博道 作品 抜粋 I壁面

J壁面



優しい母に抱かれる乳飲み子

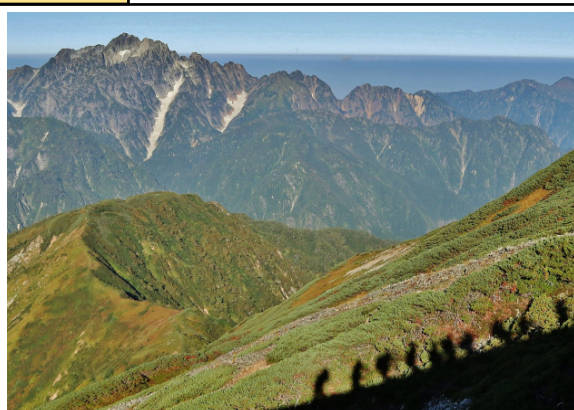


北穂高からキレット越しに北方望む



剣岳八ツ峰

荒井 初彦 作品 抜粋 I壁面



ブナの木枝越しに望む戸隠連峰 西方に剣岳を望み、鹿島槍を目指す。エベレスト街道、正面に、雪煙上げるローツェ、右にアマダブラムを望む。

川尻 義夫作品 抜粋 I壁面

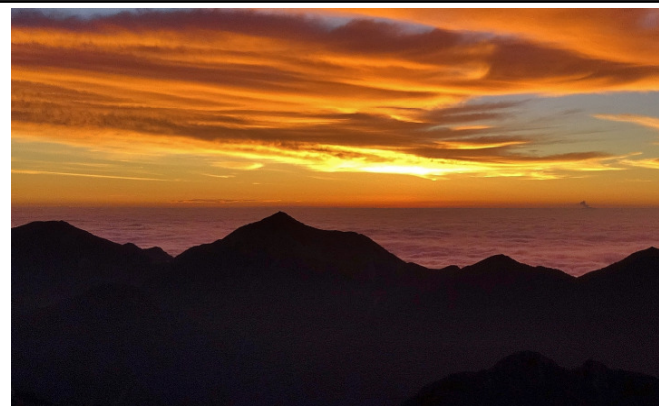
上條 賢介 作品 I壁面



結晶の霞沢岳



気嵐現る



空を染める朝焼け

上條 賢介 作品 J壁面

丸山 祐司 作品 抜粋 K壁面



梅雨空に煙る大正池



盛秋の潤沢



厳冬の上高地

賞	題名	出品者氏名	住所
	剣岳八ツ峰	梅村 博道	豊田市
入賞	スキー場の雪斜面に立つブナの木 の枝越しに、望む戸隠連峰	荒井 初彦	千曲市
	西方に剣岳を望み。鹿島槍ヶ岳の頂 を目指す。	同 上	
	登山帰りに振り返り見上げる、瑞牆 (みずがき)山2230mの岩峰群	同 上	
	鳳凰三山に咲くタカネピランジの花。	同 上	
	エベレスト街道にて、登る正面に雪 煙上げるローツェ8516m、右にアマダ ブラム(母の首飾り)6812mを望む。	同 上	
入賞	結晶の霞沢岳	川尻 義夫	松本市松原
	気嵐現る	同 上	
入賞	空を染める朝焼け	上條 賢介	松本市村井
	梅雨空に煙る大正池	同 上	
入賞	盛秋の潤沢	丸山祐司	松本市沢村
	月夜に浮かぶ焼岳	同 上	
	厳冬の上高地	同 上	

写真展 報告書 編集あとがき



NPO 法人松本ヒマラヤ友好会 (MHC) は、1990 年 4 月に任意団体として創立、2000 年 3 月には、特定非営活動(NPO)法人として認証され、今年度まで 30 年以上にわたり、松本市と姉妹都市カトマンズとの文化・芸術交流や、国際協力事業、及び岳都共通の山岳スポーツの振興を図る活動等を積極的に実施して参りました。

そしてこの度、松本市カトマンズ市姉妹提携 33 周年記念事業、「松本ヒマラヤ友好会 山岳写真展、北アルプス・カトマンズ・ヒマラヤ編-II」を関係各位のご支援をいただき、お蔭を持ちまして、NPO 法人松本ヒマラヤ友好会の文化交流・山岳スポーツ事業活動として、JR 松本駅前の井上デパート 7 階催事場にて、令和 4 年 9 月 28 日 (水) ~ 10 月 2 日 (日) までの日程で、開催することが出来ました。

そして、開催日から連日、多くのご来場者を迎え、新聞各社も大きく載せていただき、広く話題を提供していただきました。

市民の皆様には、この写真展を通じ、姉妹都市カトマンズへの関心を、今まで以上にお寄せいただいたことでしょう。

この度は、松本市が控える北アルプスとカトマンズが誇る世界の屋根ヒマラヤ・エベレスト山群との岳都交流をテーマに行った姉妹都市交流事業・エベレスト撮影紀行と一般公募による文化・山岳交流活動の写真を展示発表することが出来ました。

一般公募の最優秀作品には松本市長賞を授与することが出来、写真展開催を一層盛り上げ、大成功を収めることが出来ました。

関係各位の皆様には、心より感謝申し上げる次第です。

この展示会を実施する事で、**日本国とネパール、松本市と姉妹都市カトマンズ市**との相互理解と交流の発展を心から願っています。

会場写真



9/28 開催式典



あいさつ



入賞作品 写真展示会場

令和 4 年 10 月 25 日



特定非営利活動(NPO)法人 松本ヒマラヤ友好会
理事長 鈴木 雅 則



夕暮れ迫る世界最高峰エベレスト

撮影 鈴木 雅則



世界文化遺産バクタプールの旧王宮前広場

撮影 折野 和富